

幼稚園教育における福祉教育

— 思いやりの心を育てるためのてだて —

目 次

I	テーマ設定理由	1
II	研究の仮説	1
III	研究内容	2
	1. テーマをとらえた背景	2
	2. 教育目標と教育要領及び福祉教育との関連	3
	3. 豊かな心を育てることの意義	5
	4. 幼稚園教育内容の改善事項	5
	5. 幼稚園教育を中核とした豊かな心の育ち	6
	6. 福祉教育について	7
	(1) 福祉教育の意義	7
	(2) 学校における福祉教育	8
	(3) 幼稚園における福祉教育の意義	9
	(4) 基本的な生活習慣の育成と自立	9
	(5) 福祉の心を育てるための具体的活動内容一覧表	10
	(6) 具体的な活動内容（日常的な活動）	11
	(7) 具体的な活動内容（行事的な活動）	12
	(8) 園生活の充実を通して思いやりの心を育てる	13
	(9) 自然とのかかわりや動植物の飼育栽培を通して	13
	(10) 実践事例① セミ取り	15
	(11) 園内の自然地図	16
	(12) 行事を通して家庭・地域との連携を深める	17
	(13) 実践事例② 老人ホーム「ありあけの里」への慰問	18
IV	研究の成果と今後の課題	21
	《 主な参考文献 》	22

浦添市立沢岬幼稚園副園長

鈴木 紀子

幼稚園教育における福祉教育

— 思いやりの心を育てるためのてだて —

浦添市立沢岬幼稚園副園長 鈴木紀子

I テーマ設定理由

現代はものの豊かさゆえに心の貧しさが目立つ社会であると言われる。たとえば、子ども達の間にいじめや登校拒否、人間関係の希薄化、社会・自然体験の不足等のような問題が発生している。こういう問題の原因は複雑で様々な背景が指摘されている。

こういう中であって豊かな心を育てることが、学校教育の課題として重視されていると思われる。幼稚園教育要領も「社会の変化に自ら対応できる心豊かな人間の育成」を目指して改訂された。そして、今や、学校教育の中で福祉教育が強調されるようになってきた。

本園でも、福祉の心の一つである思いやりの心を育てるということについては、今まで教育目標の一つとして掲げ、実践をしてきた。しかし、遊びの面においてはグループの遊びや活動が、活発で盛り上がりがあるが、消極的な子に対して仲間に入れてくれなかったりする場面がみられたりする。また、一方ではセミを取った後で逃がしてあげたり、メスのセミをいたわる様子がみられたりするが、他方でセミの羽をちぎり取りセミがバタバタ動き回る様子をオートバイごっこと称して遊んでいる場面が見られたりする。

そこで、子ども達に思いやりの心を育てるためのてだてや援助はどうあるべきかについて研究を深めたい。すなわち、

- 身近な自然に親しみ、動植物にやさしい心で接する。
- 友達と仲良く遊び、助け合う。
- 命の尊さを知り、命あるものを大切にする。

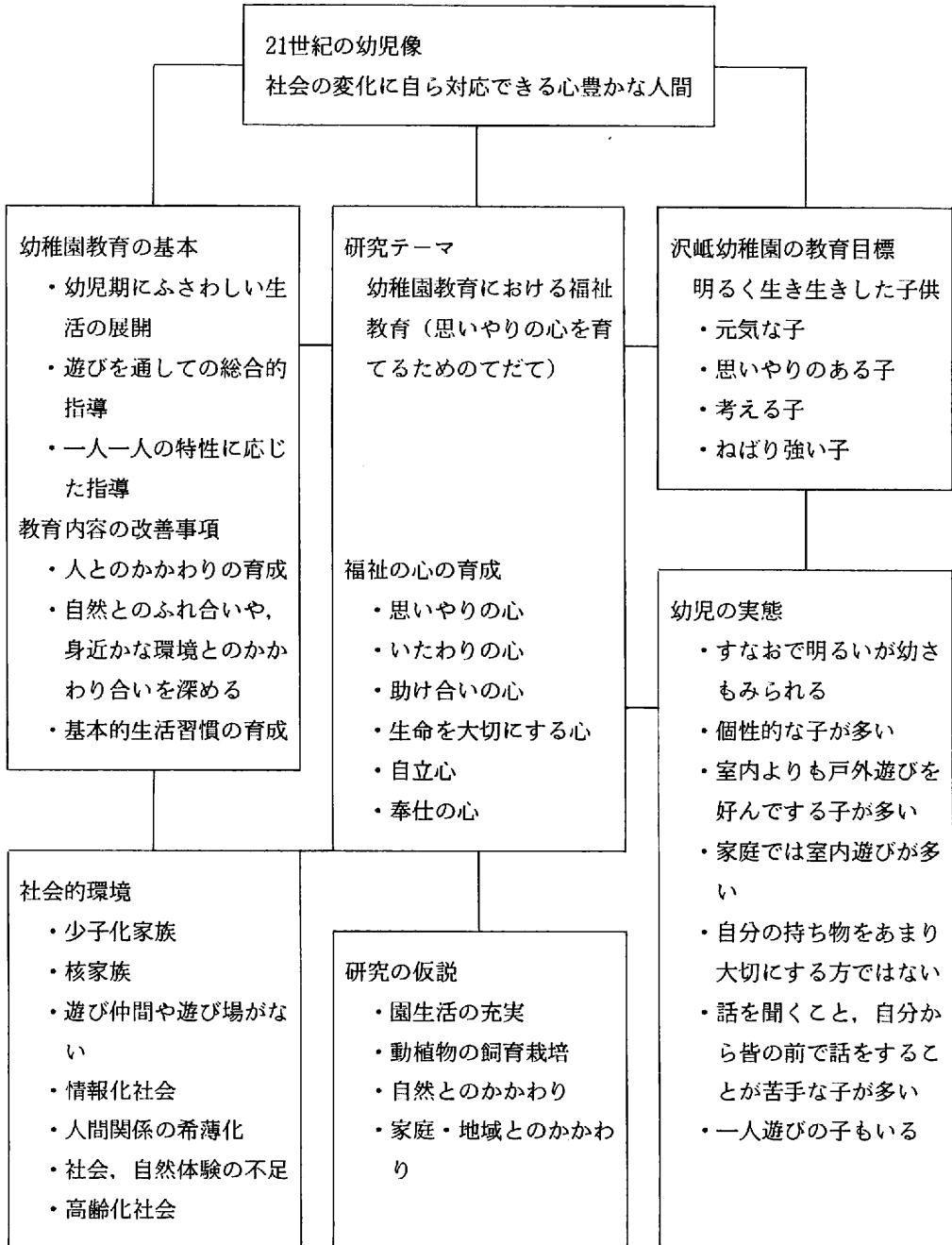
ということについて、幼い頃から少しずつ体験させていって将来への福祉の心の育成へとつなげたい。それは、幼稚園教育を充実させ、思いやりの心を育てることによって福祉の心が育つと考えて本テーマを設定した。

II 研究の仮説

1. 園での生活が充実することによって思いやりの心が育つであろう。
2. 動植物の飼育栽培をしたり、自然にかかわらせることによって思いやりの心が育つであろう。
3. 行事等を通して家庭や地域との連携を深めることによって思いやりの心が育つであろう。
4. 思いやりの心を育てることによって福祉の心の芽生えを培うことになるであろう。

Ⅲ 研究内容

1. テーマをとらえた背景



（那覇市立教育研究所紀要 228 号を参照）

幼児像	幼稚園教育要領のねらい	幼稚園教育要領の内容 (福祉教育に関連があると思われるもの)	福祉の心が育つ内容
<p>元氣な子</p> <p>思いやり のある 子</p> <p>考える子</p> <p>ねばり強い子</p>	<ul style="list-style-type: none"> ☆ 明るく伸び行動し充実感を味わう。 ☆ 自分の体を十分に動かし、進んで運動しようとする。 ☆ 進んで身近な人とかわかり、愛情や信頼感をもつ。 ☆ いろいろなもの美しさなどに対する豊かな感性をもつ。 ☆ 身近な環境に自分からかわかり、それを生活に取り入れ大切にしようとする。 ☆ 身近な事象を見たり考えたり扱ったりする中で、物の性質や数量などに対する感覚を豊かにする。 ☆ 自分の気持ちを言葉で表現し、伝え合う喜びを味わう。 ☆ 健康、安全な生活に必要な習慣や態度を身につける。 ☆ 社会生活における望ましい習慣や態度を身につける。 ☆ 身近な環境に親しみ、自然と触れ合う中で様々な事象に興味や関心をもつ。 ☆ 日常生活に必要な言葉が分かるようになるとともに、絵本や物語などに親しみ、想像力を豊かにする。 ☆ 感じたことや考えたことを様々な方法で表現しようとする。 ☆ 幼稚園生活を楽しみ、自分の力で行動することの充実感を味わう。 ☆ 人の言葉や話をよく聞き、自分の経験したことや考えたことを話そうとする。 ☆ 生活の中でイメージを豊かにし、様々な表現を楽しむ。 	<ul style="list-style-type: none"> ☆ 先生や友達と触れ合い、安定感をもって行動する。 ☆ いろいろな遊びの中で十分に体を動かす。 ☆ 身の回りを清潔にし、衣服の着脱、食事、排泄など生活に必要な行動を自分でする。 ☆ 自分の健康に関心を持ち、病気の予防などに必要な活動を進んで行う。 ☆ 喜んで登園し、先生や友達に親しむ。 ☆ 友達と積極的にかわかりながら喜びや悲しみを共感し合う。 ☆ 自分の思ったことを相手に伝え、相手の思っていることに気づく。 ☆ 友達と一緒に遊びや仕事を進める楽しさを知る。 ☆ 友達とのかかわりの中で言っていけないことや、してはいけないことがあることに気づく。 ☆ 自分の生活に関係の深いいろいろな人に親しみをもち、大切にしたりする。 ☆ 身近な物を大切に扱う。 ☆ 身近な物を言葉で表現し、伝え合う喜びを味わう。 ☆ 親しみをもちて日常のあいさつをする。 ☆ 自分で考え、自分で行動する。 ☆ 自分でできることは自分でする。 	<ul style="list-style-type: none"> ☆ 身の回りを清潔にし、衣服の着脱、食事、排泄など生活に必要な活動を自分でする。 ☆ 自分で考え、自分で行動する。 ☆ 自分でできることは自分でする。 ☆ 身近な物を大切に扱う。 ☆ 人とのかわかりをもつ。 ☆ 身近にいる幼い人や高齢者に温かい心で接し、親切にする。 ☆ 友達と仲良くし、助け合う。 ☆ 友達とのかかわりの中で言っていけないことや、してはいけないことがあることに気づく。 ☆ いたわりの気持ちをもち、思いやりの心をもつ。 ☆ 相手のことを思いやり、親切にする。 ☆ 自分の生活に関係の深いいろいろな人に親しみをもち、大切にしたりする。 ☆ 父母、祖父母を敬愛し、進んで家の手伝いをする。 ☆ 身近な動植物に親しみをもちて接し、いたわったり、大切にしたりする。 ☆ 身近な自然に親しみ、動植物に優しい心で接する。 ☆ 生命の尊さを知り、生命あるものを大切に扱う。 ☆ 感謝の気持ちをもち、親しみをもちて日常のあいさつをする。 ☆ 自分の気持ちを言葉で表現し、伝え合う喜びを味わう。

3. 豊かな心を育てることの意義

大きく変化しつつある社会の中で物が豊かになってきた反面、子ども達の中に無感動、意欲のなさ、思いやる心が薄れる等心の豊かさが見失われてきたことなどが指摘されている。このことは人と人との関係が希薄になってきたこと、時間のゆとりが少なくなったこと、物が優先する生活になってきたこと等、社会的にも様々な背景が大きな要因として指摘されている。

このような現状の中で私達は21世紀を担う子ども達が心豊かにたくましく生きて欲しいと切望するものである。したがって、今、「豊かな心」を育てることが学校教育の課題として重視されていると思われる。教育改革が進められている中で、教育課程審議会は教育課程の基準の改善の答申の中で幼稚園から高等学校までの教育を一貫して心の教育の重視をしていることが伺えることからわかる。すなわち、4つの改善策の中の一つとして「豊かな心をもち、たくましく生きる人間の育成を図ること」として次のような配慮点が上げられている。

1. 真理を求める心や自然を愛し、美しいものや崇高なものに感動する心を育てること。
2. 生命を尊重する心や他人を思いやる心を育てる。
3. 感謝の心や公共のために尽くす心を育てる。
4. すこやかな精神と身体を育てる。
5. 基本的な生活習慣を身につけ、自らの意思で社会規範を守る態度を育てること。
6. 自律・自制の心や強靱な意志と実践力を育てる。
7. 自ら生きる目標を求め、その実現に努める態度を育てる。

「豊かな心を育て」るためには

1. 真剣に自分自身を見つめる心を育てる。
2. 優しく他人を思いやる心を育てる。
3. 素直に美しいものや崇高なものに感動する心を育てる。
4. 家庭を大切に、公共のために尽くすことによって郷土や国を愛する心を育てる。

効果的に進める方法として

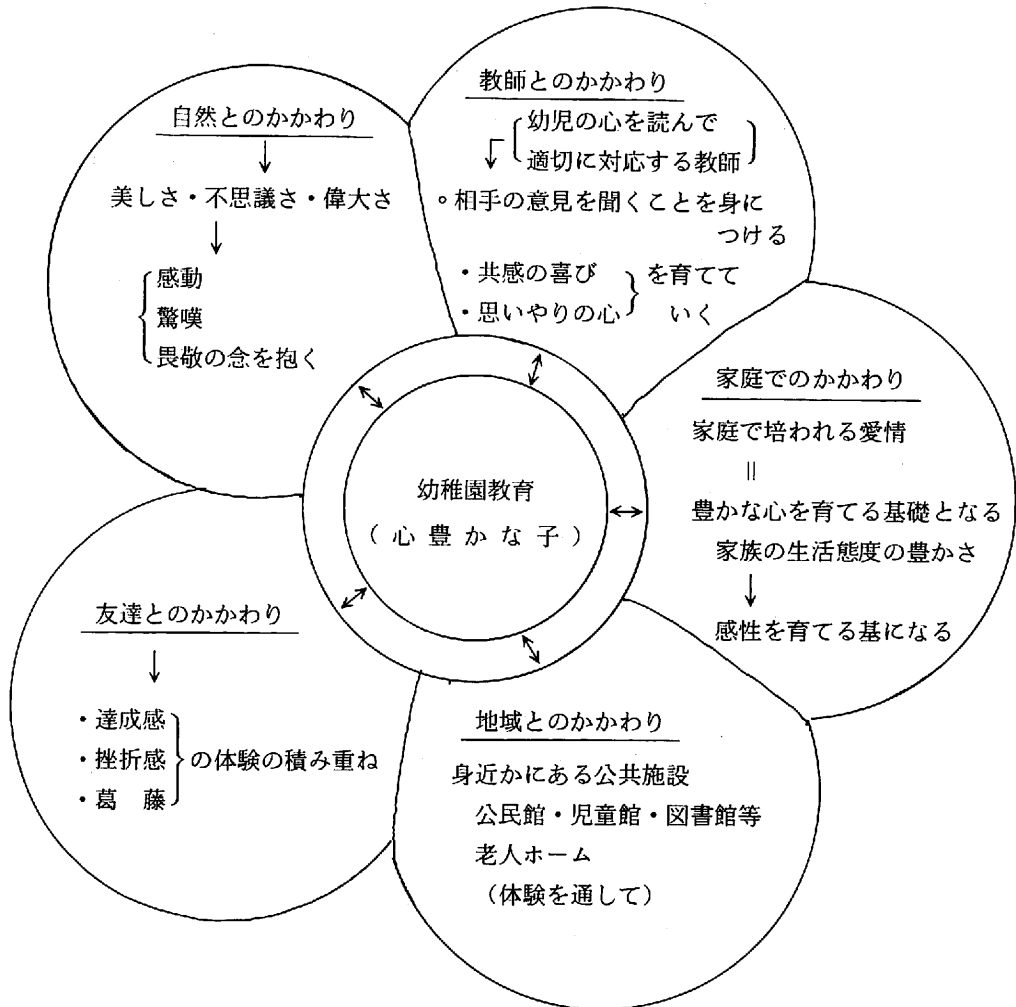
1. 遠心法から求心法へ……まず自分自身とのかかわりから
2. 直接体験を重視する。
3. 個としての主体性を育てる……他律から自律への指導が主体性を育てる。
4. 真剣に自分の心を見つめさせる。

4. 幼稚園教育内容の改善事項

改 善 事 項	育 っ 事 項
① 人とのかかわりをもつ力を育成すること	豊かな感性やその表現、周囲の人々に対する興味や関心、コミュニケーションの能力の芽生え、及び主体性と協調性の調和のとれた生活感情の基礎を養う。
② 自然との触れ合いや身近な環境とのかかわりを深めること	自然や身近な環境への親しみ、探求心、思考力の芽生えなどを培うようにすると同時に、これらの体験を得て、豊かな感受性、表現する意欲及び創造性の基礎を培う。
③ 基本的な生活習慣や態度を育成すること	社会生活や様々な事象に対する積極的な関心、物事に取り組む意欲、道徳性の芽生え等を培い、自立への基礎を養う。

5 幼稚園教育を中核とした豊かな心の育ち

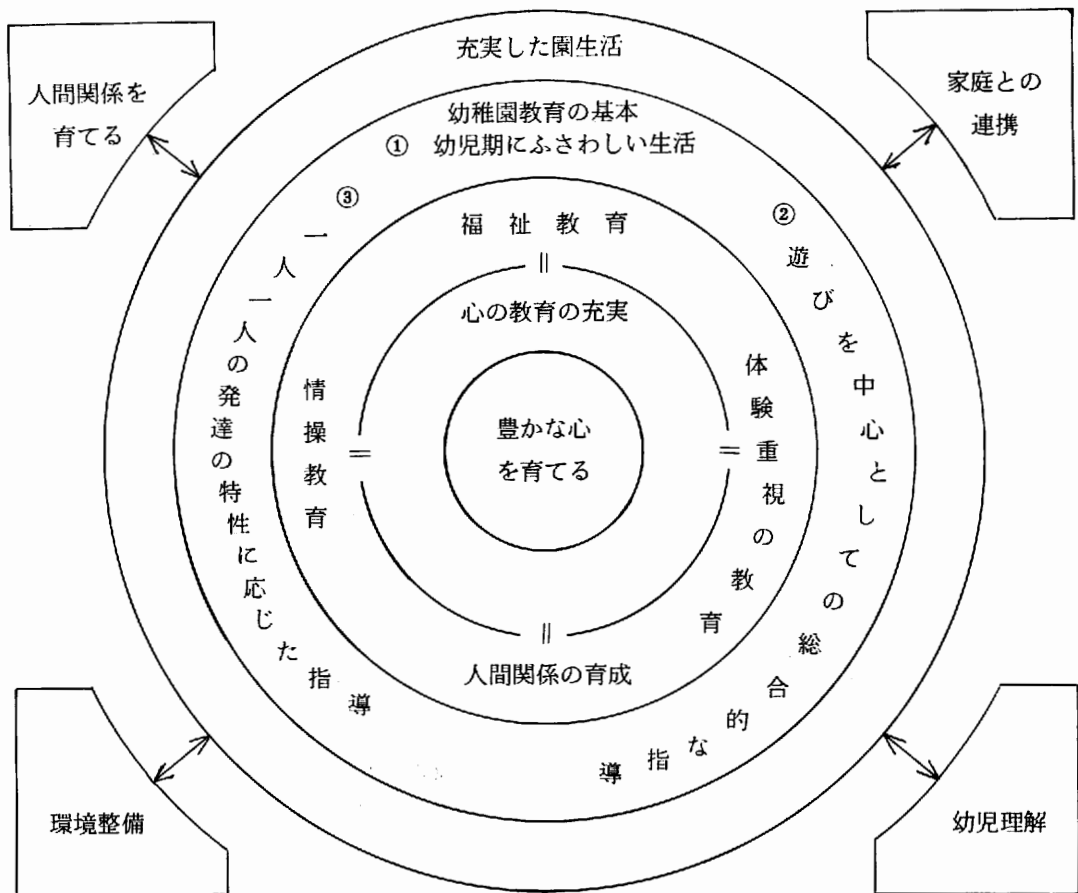
幼児の心の育ちは自然や人的環境との響き合いのなかで培われ、その主体的な活動を通して育っていく。



僕たちの植えたきくの花
こんなにきれいにさいたよ



毎日水をまいてあげたんだよ



「豊かな心を育てる」教育は幼稚園教育の基本に従って総合的に行われることが望ましい

6 福祉教育について

(1) 福祉教育の意義

福祉教育とは「人間としての、よりよいありかた」すなわち、自分だけでなく、他とともに、よりよく生きることであり、その実現を目指す活動であり、また、福祉と教育を結びつける教育であるといわれている。それは、直接的には、社会福祉に貢献できる人間の育成を目指すものであり、いわゆる、弱者とか障害者とか老人と言われる人たちに対する「思いやりの心」「いたわりの心」「助け合いの心」を培う教育である。福祉教育は命に深く関わる内容の学習を展開するなかで次の2点が大切である。

実践を通して学ぶ
人とのかかわりを通して学ぶ

福祉教育も学校教育と同様に平和憲法、教育基本法の精神の具現化を目指す教育であり、あらゆる機会にあらゆる場所において行われるものであるといわれている。すなわち、福祉

教育の基礎・基本は家庭の中で培われ、保育園・幼稚園や学校教育の中でも「心の教育」として、しっかりと根をおろさなければならないといわれている。

すなわち、福祉教育は、心の教育と実践力の教育であるということがわかる。

(2) 学校における福祉教育

教育基本法からすると、福祉教育の目標は学校教育の目標と究極的には一致するものであり、このことから、学校においても福祉の心を育てることの必要性があることがわかる。すなわち、学校教育の目的は、人間性豊かな人の育成にある。一方、福祉教育も人間尊重の理念に基づき、人々の幸福を願い求め、それに積極的にかかわる教育である。このことから、福祉教育は特別な教育ではなく、学校教育そのものであり、学校教育推進の一環であるということができるといえよう。

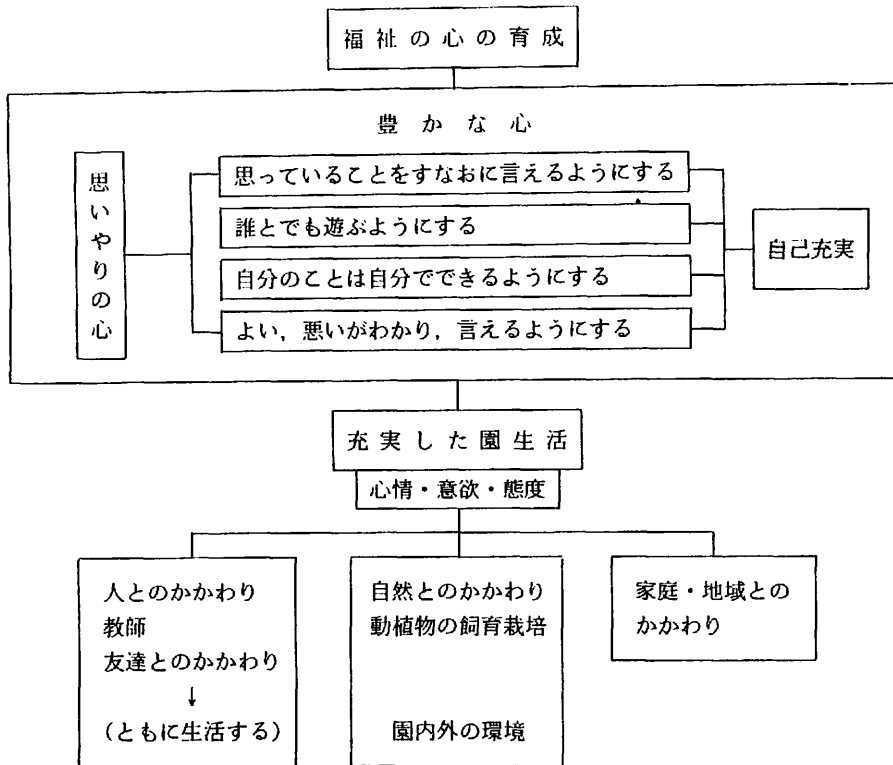
ところで、このたびの教育課程の基準の改善のねらいの一つに「豊かな心を持ち、たくましく生きる人間の育成」が取り上げられ、「心の教育」の重視が伺える。したがって、学校における福祉教育は「豊かな心」を育てるための実践であるといえよう。

福祉教育はそのボランティア精神や実践をすべての児童生徒の日常生活の中に浸透させるものであるといわれる。それは奉仕的な「福祉ボランティア」（身体や社会的にハンディキャップのある人に対して行うボランティア）のみならず、その活動自体が「学習ボランティア」（生涯学習を援助するボランティア）として自分自身の向上発展につながるものになるように広げていくことが大切である。すなわち、福祉の心とか奉仕の精神といったようなものを育てるには、具体的な活動を体験させることが最も大切であるといえよう。したがって「やってみせて、言ってみせて、させてみて大いにほめて」意図的に実践していくことにより、身につけていくものである。

(3) 幼稚園における福祉教育の意義

福祉教育は「ゆりかごから墓場まで」を通して生涯必要であり、すべての教育と同じように、あるいはそれ以上に社会性の芽生える低年齢のころからの教育の中で必要といえる。これは幼稚園教育要領の中に「幼児期が生涯にわたる人間形成の基礎を培う時期である……」とあるのをみても特にその時期の子ども達は日常の中での体験から吸収するものが大きく、また、深いだけにその環境を整えることが福祉教育においても基本的なことであるといえよう。

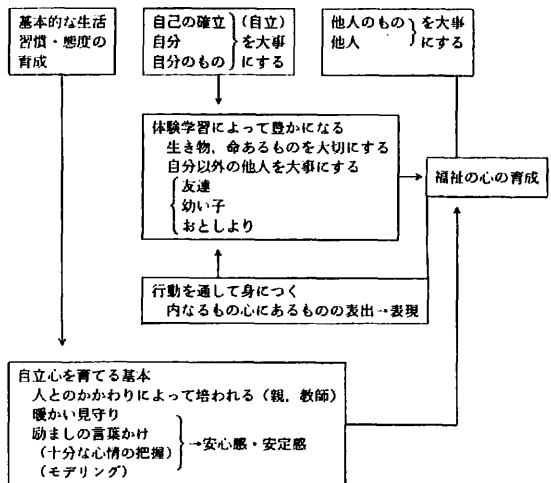
福祉教育は、一般的に言われている「福祉の心」を大きく育てることを目指す教育である。福祉の心の核になるものは「自分も他人も共に生きる」ことであろう。この考え方から他人に働きかける源になるものは人に対する優しい思いやりであって、それが人の立場を認め、助け合い、励まし合う行動になって現れてくるのである。この福祉の心や行動化する力を伸ばして育てることが福祉教育であろう。この福祉の心は、自分一人では育つことができず、他人とのかかわりの中で培われるものである。この福祉教育は、日常教育活動をより具現化することによって達成されるといわれている。



(4) 基本的な生活習慣の育成と自立

基本的な生活習慣や態度を身につけることは、幼児の自立を図ることであり、それは、生きる力につながると言われている。すなわち、「自分のことは自分でできる」ということは、幼稚園教育の基本的なことであり、それは、生活の中で人とかかわりを通して培われるものである。特に教師は、子ども一人一人に目を向け、子供の存在感、必要感という心の問題とかかわらせて考えるべきではないだろうか。

5歳児は、自己中心的であるので、まず「自分」や「自分のもの」を大事にするということに基盤があるのではないだろうか。自分のことができて、はじめて人のためにもしてあげられるのではないかと考える。すなわち、幼児は「自立心とともに、自己発揮と自己抑制の調和のとれた自律性が育てられて……」と指導書にも書かれている通りである。だから、自立している子は、他人のためにもやってあげられるのだと思われる。自分も、自分のものも大事にすることができて、人のものも大事にできるのではないだろうか。このことについて右記のように考えてみた。



(5) 福祉の心を育てるための具体的活動内容一覧表

		活 動 名	月
日 常 的 な 活 動 (園の教育活動の中で総合的に取り上げるもの)	基本的な生活習慣	食事・清潔・排泄・睡眠・あいさつ	4月～3月
		ものを大切にす	4月～3月
		聞 く	4月～3月
		話 す	4月～3月
	基本的な生活行動	自分の持ち物を決められた場所におく	4月～3月
		衣服の着脱や身体を清潔にする	4月～3月
		生活の場を整える	4月～3月
		皆と一緒に食事をする	4月～3月
	絵本を見る(読み聞かせ) (家庭への絵本の貸し出し)		4月～3月
	当 番 活 動		4月～3月
	清 掃 活 動		4月～3月
	草 花 の 栽 培		4月～3月
	一 人 一 鉢 栽 培		4月～ アサガオ 7月～ キク 1月～ キンセンカ
	野 菜 の 栽 培		トマト いちご 二十日大根, ジャが芋, 人参 他
小動物の観察及び飼育		4月～3月	
統 合 保 育		4月～3月	
行 事 的 な 活 動 (園の教育活動の中で特別に取り上げるもの)	誕 生 会		4月～3月
	おじいちゃんおばあちゃんと一緒に (敬老の日にちなんで)		9月
	老 人 ホ ー ム の 慰 問		11月
	お や つ 作 り		だんご作り, クッキー, ムーチャー, カレー
	勤 労 感 謝 の 会		勤労感謝の日の前日
	おにいちゃんおねえちゃんと一緒に給食を いただく		3月
	おうちの方と幼稚園をきれいにする (P T A 作業)		5月 10月 12月 3月
親 子 ム ー チ ー 作 り		1月(旧暦12月8日前後)	

(6) 具体的な活動内容（日常的な活動）

活動名	活動内容	育つ内容
生活習慣	<ul style="list-style-type: none"> ☆ 食事・清潔・排泄・睡眠・あいさつ・着脱 ☆ ものを大切にする ☆ 聞く ☆ 話す 	自分のことは自分でできる
生活行動	<ul style="list-style-type: none"> ☆ 自分の持ち物を決められた場所に置く ☆ 衣服の着脱や身体を清潔にする ☆ 生活の場を整える。 ☆ 皆と一緒に食事をする 	
絵本の読み聞かせ	<ul style="list-style-type: none"> ☆ 毎日の読み聞かせ ☆ 家庭への絵本貸し出しを通して親子のふれあいの機会をもつ 	<ul style="list-style-type: none"> ☆ 豊かな心を培う ☆ 社会生活の中でのものの見方、考え方が育まれる
清掃活動	<ul style="list-style-type: none"> ☆ 園庭及び室内外の清掃をする <ul style="list-style-type: none"> ◆ 毎日の生活の中でちらかっていたらほうきをもってきて清掃をする。 ◆ 園庭のちりを拾ったり、掃き清めたりする 	気持ちのよい生活の仕方に気づく
当番活動	<ul style="list-style-type: none"> ☆ おやつや弁当会の準備をする ☆ 先生のお手伝いをする 	おもいやりの心、感謝の心、人とかかわりが身につく
植物の栽培 ☆ 草花を植える ☆ 野菜を植える	<ul style="list-style-type: none"> ☆ 園庭にある草花の水かけをする ☆ 教師が世話をする様子を見る ☆ 一人一鉢栽培をする (あさがお、キク、きんせんか、かいわれ大根、その他) ☆ イモや野菜を植え、世話をし、収穫をして食する 	<ul style="list-style-type: none"> ☆ 身近かな自然に親しみ、やさしい心で接する ☆ 感謝の気持ちが育つ
小動物の観察や飼育	<ul style="list-style-type: none"> ☆ うさぎの飼育 <ul style="list-style-type: none"> ◆ 園庭や野原で摘んできた草をあげる ◆ うさぎ小屋の清掃をする ◆ うさぎの死の体験 ☆ かばまだらの幼虫からチョウになるまでの観察 ☆ せみやバッタ取り ☆ カメやざりがにの世話をする <ul style="list-style-type: none"> ◆ 水のとりかえ ◆ えさをあげる 	<ul style="list-style-type: none"> ☆ 生命のあるものを知り、生命の尊さを知る ☆ 生命あるものの尊さを知る ☆ やさしさや思いやり、いたわり等の心が育つ
統合保育	<p>(その年度によって該当児がいる場合とない場合がある)</p> <ul style="list-style-type: none"> ☆ 心身に障害をもった子ども普通の子と一緒に同じように保育をする <ul style="list-style-type: none"> ◆ 肢体不自由児 ◆ 情緒障害児 ◆ 精神薄弱児等 	<ul style="list-style-type: none"> ☆ 思いやりの心 ☆ いたわりあう心 ☆ 助けあう心 ☆ 社会性の芽生え ☆ 自立性の芽生え ☆ 自分と違う他の人の存在を知る ☆ 人とかかわりが育つ

(7) 具体的な活動内容（行動的な活動）

活動名	活動内容	育つ内容
誕生会	毎月一回合同で、その月生まれの園児の誕生会をする。	友達の誕生を一緒に喜び、人とのかかわりが育つ
おじいちゃん おばあちゃん と一緒に (敬老の日 ちなんで)	自分の身近かにいる、おじいちゃんやおばあちゃんを園に招待して、一緒に歌ったり踊ったりして楽しく過ごす	☆ いたわりの気持ちややさしさが育つ ☆ 人とのかかわりが育成される
おやつ作り	自分達で、あるいはお母さん達と一緒におやつを作り、いただく	☆ 手づくりのおいしさや感謝の気持ちを知る ☆ 友達と一緒に作る楽しさやよろこびを知る
勤労感謝の会	日頃身近かにいて自分達のために働いている人に感謝をする会をもつ	☆ 手づくりのプレゼントを通して、ありがとうの気持ちを育てる ☆ 人に対して感謝の気持ちが育つ
幼稚園をきれいにする (PTA作業)	PTA奉仕作業を保育の一環としてとらえ、親子で園内外の清掃をしたり、畑づくり等を行う	☆ 気持ちのよい生活の場に気づく ☆ 親への感謝の気持ちが育つ ☆ 地域の人々とのかかわりが育つ
給食試食会	小学校一年生のお兄ちゃん、お姉ちゃんと一緒に給食をいただく	☆ お兄ちゃん、お姉ちゃんの良さを知り、楽しく過ごす
親子ムーニー作り	☆ 親子でムーニーを作る。おじいちゃんやおばあちゃん達にも参加してもらおう ☆ ムーニーの由来についておじいちゃんの話聞く ☆ 伝承あそび等をする	地域の人々とのかかわりや伝統的な行事の良さを知る
老人ホームの 慰問 (ありあけの里)	☆ 保護者の中から子ども達に福祉に関することも直接体験させたいという意見のもとに実施 ☆ 老人ホームの大食堂でおじいちゃんやおばあちゃん達と園児達との交流を行い、お年寄りとふれあう機会をもつ ☆ 園児も保護者も一人一個づつのプレゼントや踊り等を用意し、期待をもって待つ ☆ 園児の方から積極的にふれあいをもてるように事前指導を十分に行う	☆ やさしさや思いやりの心、いたわりの心が育つ ☆ 自分と違う他の人の存在を知る ☆ 人とのかかわりが育成される

(8) 園生活の充実を通して思いやりの心を育てる

幼稚園は、幼児が適切な環境の下で他の幼児や教師との生活を通して楽しく充実した生活を営む中で、様々な体験を通して人間として生きるための基礎となる力を身につけ、自己を形成していく場であるといわれる。

充実した園生活を送るためには

- ・幼児期にふさわしい生活の展開
- ・遊びを通しての総合的な指導
- ・一人一人の発達の特性に応じた指導

をすることが基本としてあげられている。すなわち、幼児は教師との信頼関係によって支えられ、安定した園生活を送ることができると言えよう。

教師はまず、幼児の心を読み、その思いを受容することが大切で、幼児の生活がより充実するように承認し、見守り、支持し、援助していく。このような対応の中で、初めて幼児は他の人の思いを理解する心を育てていくのである。それが「思いやりの心」にもつながるのである。

そのように安定した中で幼児は、自分を思いきり出して遊ぶことを満足すると、友達を求めようようになってくる。その中で自分が受け入れられると、安定して遊ぶことができるようになる。自分が友達にしたことに対し、友達がどういう気持ちになったか、また自分が友達にされた時、どういう気持ちになるかという経験をする事によって友達の気持ちを汲もうとする心が芽生えてくる。また、友達と共感することで自分の力や存在を確認し、生き生きと遊び込めるのではないだろうか。

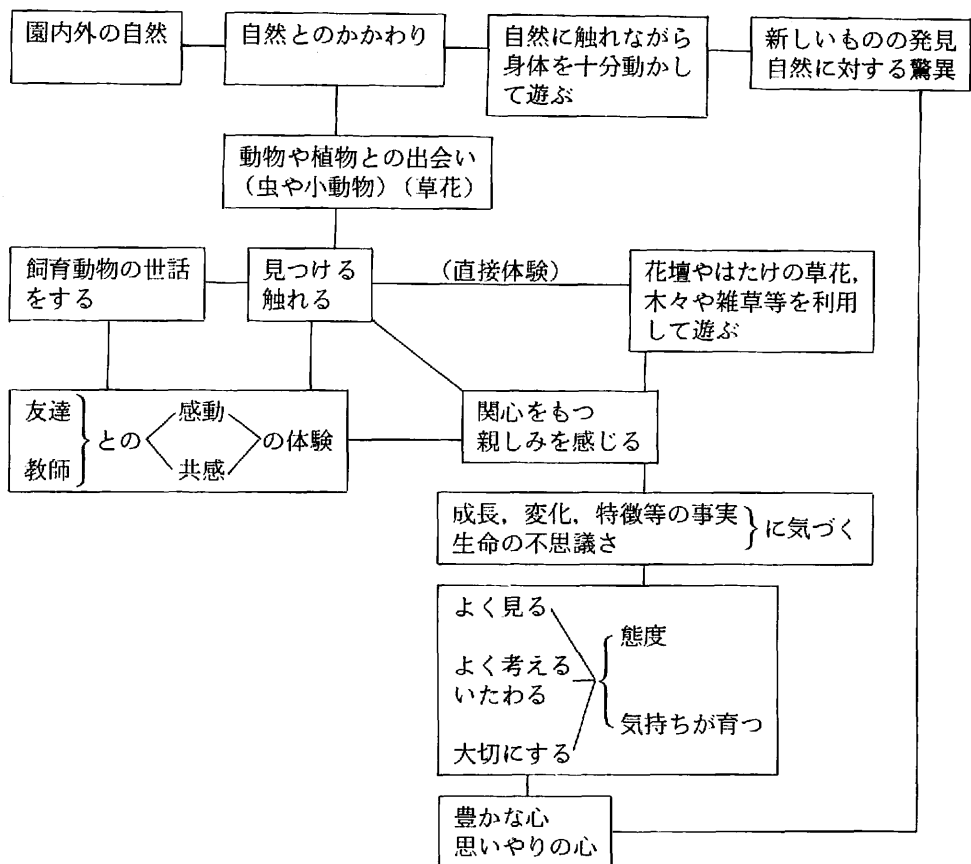
(9) 自然とのかかわりや動植物の飼育栽培を通して育つもの

① 自然とのかかわりによって育つもの

人間は自然とのかかわりの中で生きている。つまり、私達は、自然から大きな恩恵を受けつつ多くのことを学んでいると言えよう。

自然の中で生活している幼児は、解放感の中でのびのびと活動している。「幼虫見つけたよ」「この花のみつおいしいよ」と、いろいろな発見をしている。幼稚園生活の中で幼児が動植物と十分に触れ合ったり、かかわったりして直接体験のできる環境であることが望ましいと言える。そういう意味では当園は、園及びその周辺が、自然環境に恵まれているので木登りや探検ごっこ、土手を登ったり、滑ったりと子ども達のダイナミックな遊びが展開されている。また、小動物や草花との出会いも多く経験できる所である。

恵まれた自然環境とともに、意図的に動植物の飼育栽培をして自然とのかかわりを多く体験できるようにしている。



② 小動物の飼育

カメ、ザリガニの飼育……各クラスで季節によって子ども達のとってきたオタマジャクシやカエル、カバマダラの幼虫、バッタ等を飼育。飼育小屋を作ることによって、ウサギ、チャボ、にわとり等を飼育する予定である。

当園及びその周辺は自然環境に恵まれているので、季節によってセミやバッタ、くも等の小動物と触れ合う機会に恵まれている。

③ 植物の栽培

- ・季節の花を育てる。
- ・一人一鉢に花を育て、世話をして成長の様子を知る。
(アサガオ、キク、キンセンカ等)
- ・グループでの栽培
- ・いもや野菜の植え付け

二十日大根、いちご、さつまいも、じゃがいも、人参、トマト等も栽培して食べるという子どもにとって身近かで大好きな活動とかがわらせている。(カレー作り等)

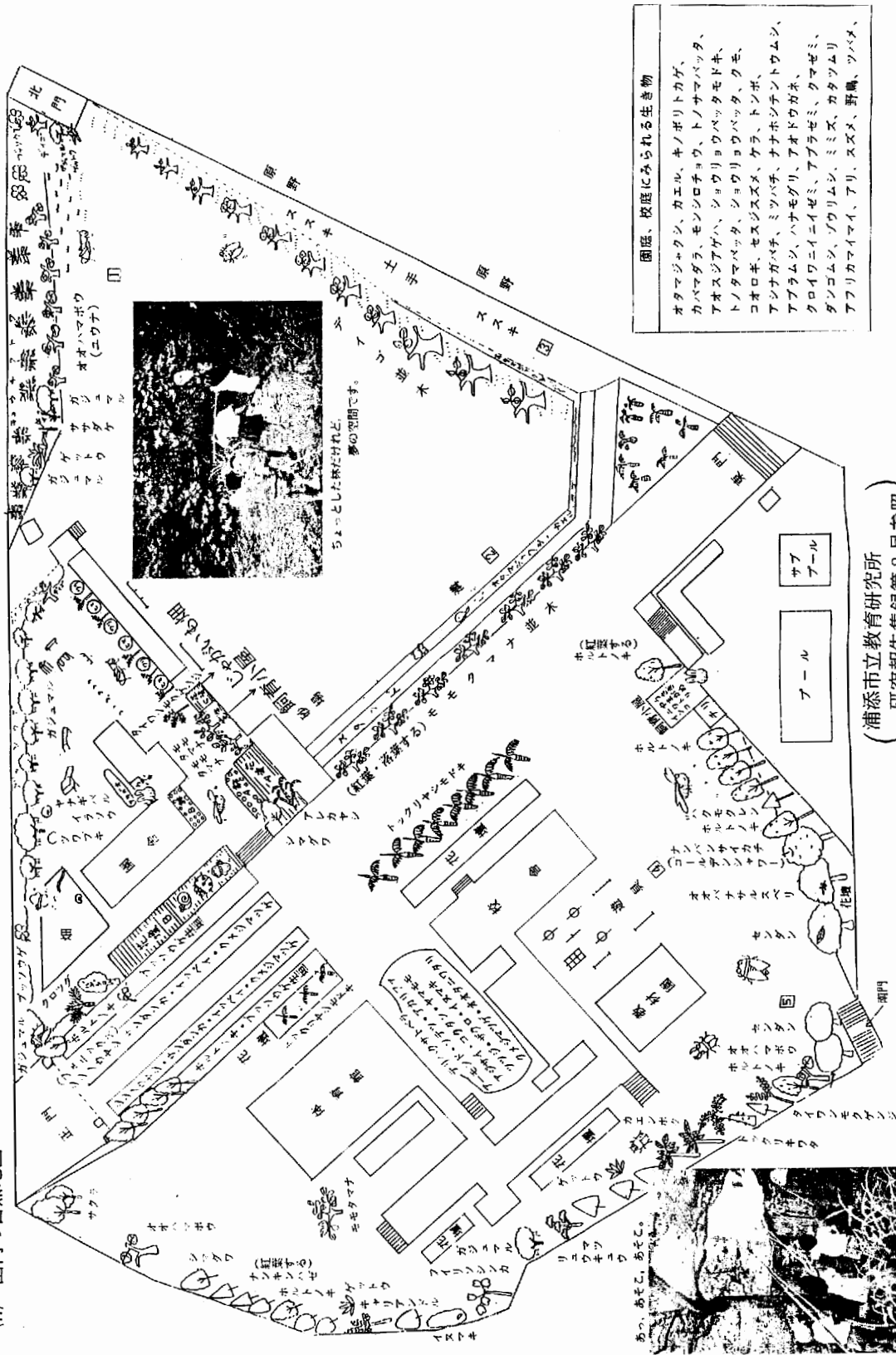
(10) 実践事例 ①

セミとりにおける子ども達の思いやり、やさしさの場面

子どもの言動	育ちの内容
<p>(セミを短い木の枝に止まらせたまま持ち歩いている)</p> <p>教師：どうして木の枝にとまらせるの。 Y夫：木の汁を吸うからだよ。</p> <p>T夫：オスがすき。 Y夫：なんで。 T夫：鳴くから。これメスだよ。 メスだから逃がそう。 教師：どうしてメスだと逃がすの？ T夫：メスは卵を産むから。 Y夫：交尾するかも知れないから。 (「ばっ」と言いながらメスのセミを上に向けて放している。)</p> <p>T夫：このセミとばないよ。 Y夫：じゃ、木にとまらしてくるよ。 教師：どうして？ Y夫：セミは高いところに行くんだよ。 木だったら登るよ。 S夫：セミ取ったよ。かごに入れておこう。 N夫：一週間で死ぬのに、にがしておいで。 S夫：いやだ、ぼく取ったのに。 N夫：一週間なのに。 S夫：オスは一週間で死ぬよ。だからかごに入れてもいいんだよ。 N男：これ空気できるようになってる？ S男：ううん。 N男：じゃ、ちょっとあげればいいさ。</p>	<ul style="list-style-type: none">◦セミは木の汁を吸うので木の枝に止まらせているという子どものやさしい気持ちが表れている。 ◦メスは卵を産むので大事にしようというやさしさが感じられる。 ◦木はセミにとってよりどころであると感じ、そこに戻してあげたいという思いやりの気持ちが表れている。 ◦セミの命は一週間位の短いものであるということを知っているので、いたわりの気持ちが表れている。 ◦セミを入れるものは穴があいていないと息ができないと死んでしまうことがわかるので、穴をあけてあげるという思いやりの気持ちが表れている。

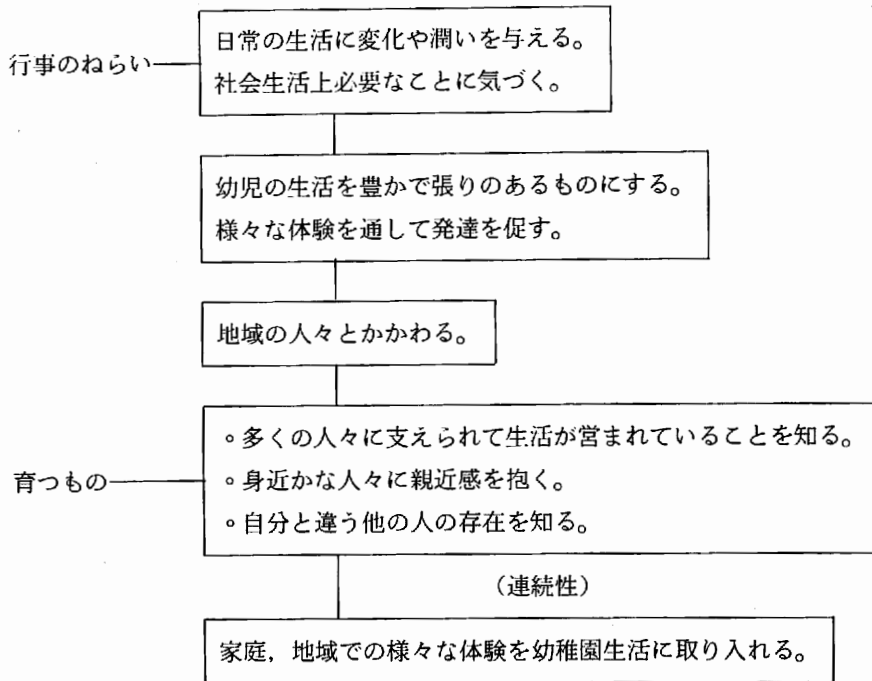
考察： セミの習性を知っている子と知らない子のセミに対する思いやりの気持ちが違って来る。そこで、教師や友達とのかかわりの中でセミの習性を知り、思いやりの心も育って来ると思われる。

(11) 園内の自然地図



(浦添市立教育研究所
研究報告集録第2号参照)

(12) 行事を通して家庭地域との連携を深める



(当園の行事的な活動)

- P T A 活動等を通しての保護者の参加
(指人形作りとその実演、おやつ作り、P T A 作業、各クラスでの参観日の読み聞かせ)
- おじいちゃん、おばあちゃんと一緒に過ごす。
- 老人ホームの慰問
- 勤労感謝の会
- 親子ムービー作り
- 小学校一年生との給食の試食会



警備のおじさんありがとう

(13) 実践事例 ②

特別養護老人ホーム

「ありあけの里」への慰問実施計画

1. 意義

核家族化が進みつつある今日、お年寄りが多いにもかかわらず、子どもたちはお年寄りとのふれあいの機会が少ない。そこで、老人ホームへの慰問をし、踊りや手あそびを通してお年寄りとかかわることによって思いやり・やさしさ・いたわりの心を育てたい。

2. プログラム

進行 …………… 副園長 (1) はじめのことば …… PTA会長 (2) あいさつ …………… 園長 (3) 園児の踊り …………… ひかりのシャワー (ボンボンを各自に持たせておく)	(4) プレゼント贈呈 …… 園児、保護者 (5) 手遊び …………… うた 「おじいちゃんのおとし」 (肩たたき) わらべうたで手遊び 「いーゆのみーたーくののみー」 「赤田首里殿内」 (6) 保護者の踊り …… 「アブジャーマ」 保護者代表 (7) カチャーシー …… 保護者を中心に (8) あいさつ …………… ありあけの里所長 (9) おわりのことば …… PTA会長
---	--

3. 指導案 11月14日 木曜日 9:15~11:30

ねらい	老人ホームのおじいさん、おばあさんとふれあいをもつ。	
時間	幼児の活動	留意点
9:15	<ul style="list-style-type: none"> ◦玄関前に集まる。 ◦バスに乗る。 	<ul style="list-style-type: none"> ◦押したりせず順番を守って静かに乗るように声かけをする。
9:30	<ul style="list-style-type: none"> ◦幼稚園を出発する。 	
9:45	<ul style="list-style-type: none"> ◦ありあけの里着 	
10:00	<ul style="list-style-type: none"> ◦おじいさん、おばあさんと楽しく過ごす。 ◦ひかりのシャワーを踊る。 ◦プレゼントをあげる。 ◦ゲームをする。 歌にあわせながら肩たたきをしたり、手遊びをして交流をもつ。 ◦お母さん達の踊りを見たり、カチャーシーを踊ったりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ◦教師もゆとりをもって子ども達に接し、自分達の踊りを楽しんでもらえるよう一生懸命頑張って踊るよう励ます。 ◦おじいさん、おばあさんに自分の作ったプレゼントをあげる時「どうぞ」等と声をかけながら首にかけてあげるようにする。 ◦スキンシップがスムーズに出来るようお母さん達と一緒に肩たたきや手遊びをするよう声かけをする。 ◦お母さん達の演技も静かに見るよう声かけをする。
11:00	<ul style="list-style-type: none"> ◦ありあけの里出発 	
11:15	<ul style="list-style-type: none"> ◦幼稚園着 	

特別養護老人ホーム「ありあけの里」の慰問を終えて

◆ 子ども達の言動から

- おばあちゃんのおてて冷たかった。
- 「いーゆぬみー」したら笑っていたよ。
- くすぐったいって言ったよ。
- 肩たたきいい気持ちって。
- 肩たたきありがとうって。
- ともえがおててつないだら、おばあちゃんもつないだからうれしかった。
- おばあちゃんやらなかったけど、むっちゃんつかまえたよ。
- みんなかわいそうな人ばかりいた。手や足の細い人もいた。
- 首ばかり振っている人もいた。
- 泣いたり、泣きそうなおばあちゃんもいた。
- 手をつないだら、泣いている人もいた。喜んでいる人もいた。
- 「いーゆぬみー」で、くちゅくちゅした時「あっしゃびよーかゆいさー」と言って笑っていた
- 先生、楽しかったね。またプレゼント作って家族で行きたい。手をつないだ時、かわいそうな感じだった。
- 握手の時、ありがとうって言ったよ。
- カチャーシーおもしろかったよ。
- きょうは楽しかったです。ありがとうございました。

◆ 保護者の感想

- 昨日から親子で「ありあけの里」老人ホームの訪問を楽しみにしていました。日頃おじいちゃん、おばあちゃんに接する事が少ないので、いい機会だと思いました。肩たたき、お遊戯等をしておじいちゃん、おばあちゃんが喜んで下さっているのを見て、ほほえましく思いました。子ども達がいつまでもやさしい、いたわりの気持ちを忘れないように …………… とても楽しい一日でした。
- 今日、おつかれ様でした。たいへん貴重な体験をした事でしょう。家に帰ってから、T男が言った言葉。「T男のおばあちゃん、ちゃんと自分で歩けるけどね……………」
2年つづけて参加してみて、今年の方が味のある交流会だったと思います。
- 昨日の慰問は、子どもにとっても良い経験になったと思います。最初は、とまどっていましたが、おじいちゃんの手をとって踊っている姿を見て、やはりこういう機会をもうけるのも大切なんだなあと感じました。ちなみに私も「ありあけの里」は初めてだったのでいろいろ勉強になりました。
- 昨日、参加した「ありあけの里」とても良かったです。おばあちゃんはいますけど、やはり全然違うような気持ちで接することができて自分自身も、とても勉強になりました。私の隣にいたおばあちゃんも「お母さんの踊りもよかったけど、小さい子の踊りは、とても、とても楽しくてよかったよ。ありがとう。ありがとう。」と、何度も何度もお礼を言われて、こちらの方がかえって恐縮してしまったほどです。

◆ 「ありあけの里」職員の感想

……（前略）……おゆうぎや肩たたき、また、おじいちゃんおばあちゃん、園児が手をつなぎ一体となって踊ったり、ゲームなどで楽しく過ごしました。利用者の中には感激し涙を流す方もおり、幼少の頃やしばらく会ってない家族や孫達を思い出したのかもしれませんが。おおきくごつごつした永い年輪が刻まれた手と小さくやわらかい手と握手した感触は、本当に心のふれあいになったことでしょう。……（中略）……最近は核家族化が進み、普段お年寄りと接する機会が少ない点、子ども達におじいちゃんおばあちゃん達とふれあい、思いやる心、いたわる心が必要であり、また人生の過程を少しでも子ども心で実際に膚で感じ、目で見ることにより幼児からの福祉教育につながるのではないかと思います。父母の皆様には福祉施設を理解してもらうよいチャンスだと思い、喜んで受け入れることにしました。ホームでは子ども達の出入りが少ないので、その日はかわいい園児達の黄色い声がホーム中にひびき、にぎやかな一日でした。また、慰問と同時に親子で作った小箱やクリスマスツリーの飾り等、心のこもった手作りのプレゼントもありました。……（後略）

◆ 考 察

- ◇ 参加者 園児 100 人 保護者（父母）42人 職員他引率者 8人
- ◇ 会場に幼稚園児が先に着いてお年寄りが入場して来るのを待つのはよかった。
 - 徐々にお年寄りが入って来るので抵抗感がなく、子ども達はスムーズに受け入れることができた。
 - 補助を必要としているお年寄りの車いすを押ししたりして、お母さん達がかかわっている姿をみて、子ども達のふれあいがスムーズにできた。
 - お母さん達はボランティアとして参加することが望ましいのではないか。
- ◇ 事前指導で老人ホームのことについて話し合っていたので、子ども達が積極的にお年寄りとかかわりをもつことができよかった。
- ◇ 子ども達のことばから、お年寄りの気持ちをよく受け止めていたように感じられる。
- ◇ 子ども達が前で踊るとお年寄りもつられて踊っている。お年寄りも子ども達とのかかわりで、自然にうちとけているように思われた。
- ◇ 子ども達の体験は、心の奥にため込まれていて成長とともに経験が生きてくる。したがって老人ホームの慰問は子ども達にとってよい経験であると思われる。



おじいちゃん、おばあちゃんの
肩たたき

IV. 研究の成果と今後の課題

1. 研究の成果

- 福祉教育の意義や内容について概略を体系的に把握することができた。同時に幼児教育の重要性について改めて見直すことができた。
- 今行われている教育改革が（保育園）幼稚園から高校まで、さらには生涯の見通しの上に立ってなされていることを実感した。このことは、とりもなおさず福祉教育と一致する部分でもあり、21世紀の社会に生きて行く「心豊かな人間の育成」を目標にすべての教育が向かっているんだなあと感じた。
- 福祉教育について考えるとき、まず幼稚園教育の理念をしっかり持ち、基本的なことを踏まえて日々の保育に携わることが大切であることがわかった。幼児が充実した園生活を送ることによって豊かな心が育成され、福祉の心の芽生えが培われ、幼稚園教育の重要性を再認識した。幼稚園教育の果たす役割は大きい。
- 福祉教育は、日々の保育実践の中で生活の一つとして行われることが大切である。また、行事として意図的に子ども達に体験させることも思いやりの心を育てる上で効果があると感じた。行事等は、子ども達の経験を広げ、より具体的な体験を通して学ぶことが多い。
- 幼稚園教育の基本的なこととして幼児の自立が大切であること、それが基本的な生活習慣態度の育成とのかかわりが大きいこと。さらに、それは親や教師とのかかわりで安定感という「心」の根っこの部分で、大切な位置を占めていることがわかった。
- 幼稚園教師は、園独自でのみ行われるものではない。保護者の協力、参加によって相乗効果を増し、市教育委員会、関係保育園、小学校、地域社会との連携によって十分な効果をあげられることがわかった。
- 今まで幼稚園教育は、心の教育である等と漠然ととらえている部分があったが、その意味を理解することができた。
- 幼児は元来、生き物に対する思いやりの心をもっているものであると思う。その気持ちは友達や教師とのかかわりによって育てられていくものではないかと感じた。特にモデルとしての教師の態度や姿勢、意識によって助長されるものではないかと考える。
- 老人ホームの慰問等、新しい試みについては当初、消極的な面もあったが実践を通して改めて子ども達への影響力の大きいことがわかり、意義のある活動であった。体験を通して学ぶことの意義を教師間で確認した。
- 家庭や地域幼稚園での生活が充実することによって思いやりの心が育ち、福祉教育の芽生えを培うことがわかった。

2. 今後の課題

- これまでの実践を踏まえ、年間計画の見直しと福祉教育を園の教育課程の中に位置づける等について、さらに実践研究を深めていきたい。
- 園の恵まれた自然環境を生かしながら飼育小屋の活用、畑の整備をし、共に生活のできる小動物の飼育、遊びに使えるような草花の栽培等ができるよう園庭の充実を図り、自然環境を整えたい。

- 地域の中で育っていけるように家庭や地域とのかかわりを持ちながら人的、物的環境を整えたい。
- 幼児が楽しい園生活、充実した園生活が送られるように教師間の連携を密にしながら、これからも21世紀を見据えた教育を考えつつ福祉教育の視点から心豊かな子を育てるために園運営のあり方についても考えたい。

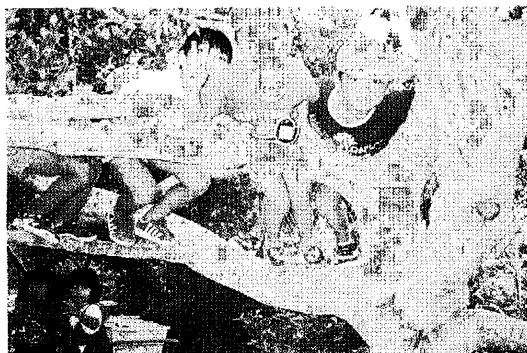
※ おわりに

「福祉教育」ということにかかわってきましたが、やっと幼稚園教育の中の福祉教育の概略がわかってきたように思います。機会があればもう少し深めて考えてみたいとも思います。幼稚園教育しかみえなかった私に研究の機会が与えられ、教育に対する視野が広がったことは、大きな収穫でした。

副園長として研究に携わり修了できますことは、お力添え下さった皆様方のお陰です。教育長保久村昌伸先生をはじめ研究所長福山朝秀先生、担当指導主事の宮城久子先生、他の指導主事の先生方、市教育委員会の皆様、研究所の皆様、井上実園長はじめ幼稚園の職員の皆様から感謝申し上げます。

※ 主な参考文献

◦ 文部省	幼稚園教育要領	フレーベル館	1989年
◦ 文部省	幼稚園教育指導書	フレーベル館	1989年
◦ 浦添市福祉教育 研究協議会	これからの福祉教育		1991年
◦ 鳴門教育大学附幼稚園著	子どもと創る保育	明治図書	1987年
◦ 一番ヶ瀬康子 編 大橋謙策	シリーズ福祉教育 2 学校における福祉教育実践 1 保育所、幼稚園、小学校	光生館	1988年
◦ 全国国公立幼稚園長会編	幼稚園じほう Vo.18 No.8 他 " Vo.19 No.1, 4		1990年 ~1993年
◦ 西久保礼造 著	保育実践用語辞典	(株)ぎょうせい	1990年
◦ 那覇市立教育研究所	第55期教育研究員 報告書(幼稚園)	尚生堂	1991年
◦ 全国国公立幼稚園長会編	研究収録 (平成元年度、2年度版)	(株)三誠社	1992年



木のぼりだ~いすき